

令和 2 年 4 月 25 日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2019

課題番号：15K03980

研究課題名(和文) 社会福祉哲学とスピリチュアリティ ソーシャルワーカーの宗教意識

研究課題名(英文) Philosophy of Social Welfare and Spirituality: A Historical Analysis of Social Workers's Religion

研究代表者

木原 活信 (KIHARA, Katsunobu)

同志社大学・社会学部・教授

研究者番号：20275382

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：福祉の根源としての価値意識、社会福祉哲学と宗教性の関連に焦点をあてた研究を行った。その特徴は次の2点である。一つは、宗教性をいわゆる宗教の組織やその教義ではなく、未だそれが組織化されていないスピリチュアリティであると定義した点。そして、もう一点は、スピリチュアリティを理性言語である福祉哲学との枠組みにおいて具体的に検証した点である。

この研究の成果は以下の2点である。一つは、社会福祉哲学の枠組みとスピリチュアリティの関連を理論的に検証した点である。二点目は、ソーシャルワーカーの宗教性を分析し、その教派性やスピリチュアリティについて思想的に分析した点である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

社会福祉哲学の枠組みにおいてスピリチュアリティを検討しようとしている点、福祉人物史研究を宗教性とスピリチュアリティに絞った横断的に総合的研究しようとする点、スピリチュアリティの内面化だけでなく、社会性、国家性のマクロにまで拡大している点、上記を国際比較として欧、北米、アジアとの比較で議論している点、死生学の文脈に限定されないスピリチュアリティの社会福祉の応用的視座を明示する点である。

研究成果の概要(英文)：This research focuses on the relationship between social welfare philosophy and religiosity through an analysis of the origin of welfare. The features are as follows: religiosity is defined as a "spirituality" that is not yet organized, rather than a so-called religious organization or its doctrine; and spirituality was specifically verified in the framework of welfare philosophy using rational language.

Results illustrate a theoretical verification of the relationship between the framework of social welfare philosophy and spirituality. In addition, this study analyzes the denomination and spirituality of social workers.

研究分野：社会福祉学

キーワード：スピリチュアリティ 社会福祉哲学 ソーシャルワーカー

## 1. 研究開始当初の背景(着想の経緯、概要)

社会福祉と宗教との関係を、その教義性(ドグマ)としてではなく、その宗教性に着目したスピリチュアリティ(霊性)に着目した研究である。これまで報告者は、福祉哲学研究、福祉思想史の研究をしてきたが、それらについての枠組みを北米の国際学会で発表した際に手ごたえがあり、国際的にも注目される研究であることを実感した。特に、島園進の主張する「スピリチュアリティの興隆」(2006)や「宗教的ではないが、スピリチュアルである」(林、2011)という現代の日本人に共通する認識を吟味すると、宗教体系との関係ではなく、福祉哲学の枠組みとしてスピリチュアリティを考究することが、重要であるとの認識を得た。

そのような中で、これらの問題意識を、具体的にすすめるにあたり、歴史上のソーシャルワーカーの宗教性に着目することの重要性を認識するにいたった。つまり、其々のソーシャルワーカーの実践活動の背後にある宗教性とその実践の関係である。たとえば報告者の研究でも既に明らかにしてきたが、Jane Addams にみられるクエーカーイズム、Henri Nouwen のカトリシズムの宗教体系とされる以前のスピリチュアリティ(霊性)は、その実践の根底を支えるだけでなく、その実践内容それ自体に大きな影響を及ぼす要素であることが明らかにされてきた。

## 2. 研究の目的

本研究は、福祉の根源としての価値意識、社会福祉哲学と宗教性の関連の一端ではあるがその一部を明らかにし、宗教性をいわゆる宗教の「組織」やその「教義」ではなく、未だそれが組織化されていない「霊性」としてのスピリチュアリティであると定義し、その上で、それを理性言語である福祉哲学との枠組みにおいて具体的に検証を試みることである。また、ソーシャルワーカーの宗教性を歴史的に分析していき、その教派性や宗教意識について思想的に分析することである。

## 3. 研究の方法

本研究において採用した研究方法は、基本的に文献研究である。研究手法としては、自分史を活用したナラティブ・ライフヒストリー方法を用いて、人物の宗教性の内面の世界に迫る手法も参照した。方法については、報告者の論文に詳しい(木原活信「自分史と福祉実践 対抗文章としての記録(ナラティブ・リコード)について」『ソーシャルワーク研究』31巻3号2005年)。また報告者が同志社大学人文科学研究所における石井十次の日誌分析を電子化したデータの分析方法も活用した。

文献研究では、国内外のスピリチュアリティと社会福祉哲学に関する資料を収集分析した。下図のキーワード検索に示すように多様な文献がみられ、とりわけスピリチュアリティに着目した研究が近年確実にその量が増していることがわかる。

	CiNi		KAKEN		JAIRO	
スピリチュアリティ	416	826	57	161	40	139
福祉哲学	39	41	3	6	7	10
スピリチュアリティ*福祉	45	57	37	48	12	24
スピリチュアリティ*看護	84	100	47	64	12	26
スピリチュアリティ*医療	98	106	52	74	13	21
スピリチュアリティ*社会	149	159	89	118	27	40
スピリチュアリティ*哲学	21	26	36	51	8	12

#### 4. 研究成果

##### (1) 先行研究の批判的検討

この研究領域でもっとも発展的に研究をしている Canda, E. R. & Furman, L. D. (2009) *Spiritual Diversity in Social Work Practice: The Heart of Helping*. (Oxford University Press) をとりわけアジア的コンテクストにおけるスピリチュアリティの概念を再検討した。Canda の研究の特徴は、スピリチュアリティの多様性を諸宗教の分析から導き出そうとしている点である。

これらを踏まえつつも、報告者のこの研究は、抽象化された議論ではなく、援助者(ソーシャルワーカー)自身のもつ個別の宗教性に着目して、それが及ぼす影響の類型である。つまり歴史上のソーシャルワーカーの思想史的分析方法に特徴と独自性がある。これは「宗教的ではないが、スピリチュアルである」(林, 2011) という意識を宗教体系との関係ではなく、福祉哲学の枠組みとして研究する(日本社会福祉学会 2013 での学会報告)という認識と一致する。よって改めて福祉哲学の枠組みで構造的にこのスピリチュアリティを議論することは、これまで類例のなかったものである。その上で、本研究を特徴づける点であるが、抽象度の高いこれまでのスピリチュアリティの研究を具象化させ、この福祉実践に先鞭をつけた過去の社会事業家の思想に焦点をあてた。そのために、社会事業家のパーソナルな日誌や書簡、および資(史)料を、国内のみならず、アメリカ、イギリス、韓国等で網羅的に収集した。スピリチュアリティが多様な文化的価値観と宗教性に基づくために、比較的観点からも欧米、アジアに広げるのは重要であることを認識した。

本研究では、先行研究を踏まえつつ、1989 年第 101 回 WHO で、健康定義「physical, mental, and social well-being」に「spiritual, dynamic」を加えようとする見直し案(\*注 1)を踏まえ、ソーシャルワークにおいて、これまで等閑視されてきたスピリチュアリティ概念を社会福祉哲学との関連に比重を置いて概念定義を再考し以下のような課題を示した。

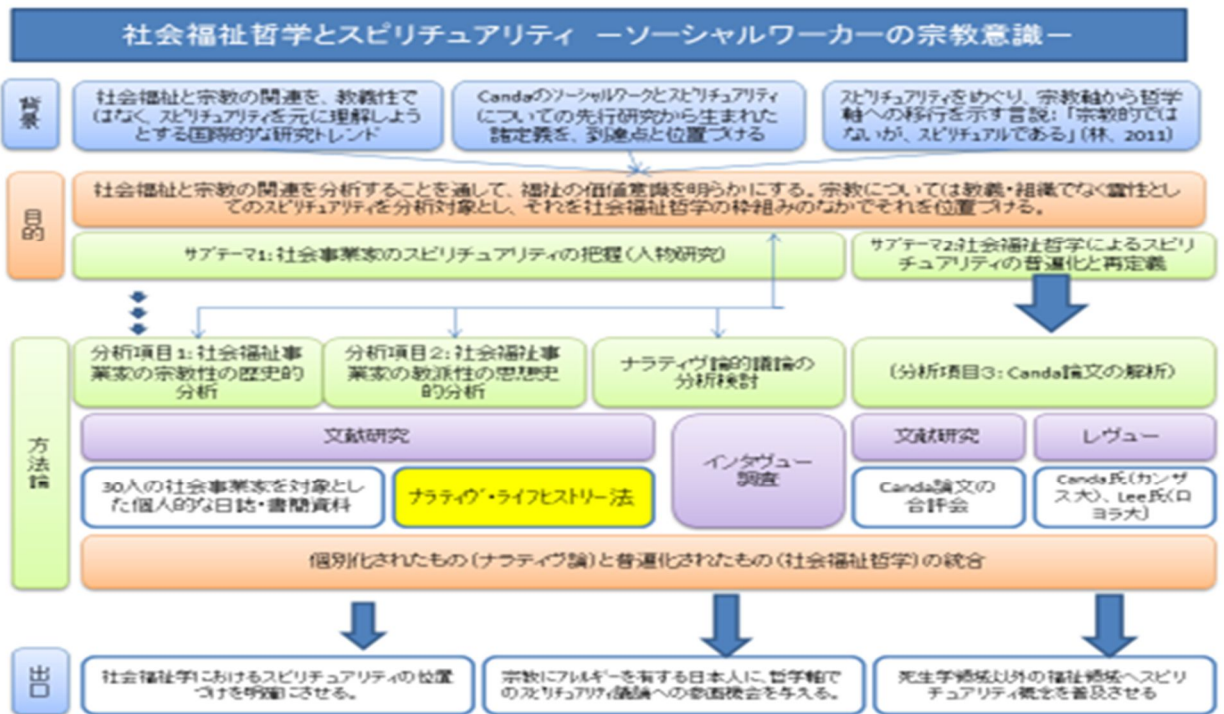
スピリチュアリティの概念の哲学的な再定義

スピリチュアリティと社会福祉哲学に関する世界の文献の検討、国際比較

社会福祉事業家の宗教意識(スピリチュアリティ)について思想史的分析

\* (注 1) (参照) WHO の健康定義の案件 Health is a dynamic state of complete physical, mental, spiritual and social well-being and not merely, the absence of disease or infirmity.

##### (2) 本研究の視点、特色、意義



具体的には、Canda らの定義をもとに、報告者自身の研究成果を継承しつつも以下の点で抜本的に新しい方向性を提示した。それは、現在、宗教の軸から哲学の軸へ移行する傾向を受けて、スピリチュアリティをめぐる宗教と哲学の間を厳密に議論した点である。その意義として、以下の3点をあげることができた。

社会福祉学におけるスピリチュアリティの位置づけを明確化。

「宗教」に対するアレルギーをもつ現代人(特に、日本人)に、哲学を軸とすることにより、スピリチュアリティの議論への参加を促し、活発な議論が展開されうる可能性。

政教分離議論において様々な臨床、特に病院などでチャプレンなどの宗教的専門家(聖職者)が占有するホスピスケアにおいて、非宗教職が介入できる素地。

また、本研究ではこれまで社会福祉実践家の人物史研究でとりあげられてきた人物の思想と生涯を、前回の研究成果を継承しつつ、今回の研究では横断的にとらえ、更に国内外の人物を射程にいれ実践家のもつ宗教性と特性に着目して構成的に再検討、再解釈した。社会福祉学における人物史研究は、報告者も含めて、室田保夫、細井勇、金子光一らの貴重な研究成果があり、それらは様々な社会福祉史を解明するにあたって有効な研究成果を生み出してきた。しかしながら、人物がもつ宗教意識それ自体とその実践の関係のみに特化したような枠組みでの検討は十分になされていない。また、スピリチュアリティという普遍的人間の特性を、社会福祉哲学の観点で国際比較の視点で検討するという視点は、福祉国家等の国際比較は別として、その心性やエートスを含めたような比較研究は、かつて宗教的意識の型をフレームとしている Max Weber が試みた類型論を参照しているが、社会福祉思想の分析においてこれらを踏襲したものは類例がない。

### (3) 本研究の斬新性・独創性

以下の5点において、独創的な研究であり、社会的意義をもつものと考えられる。

社会福祉哲学の枠組みにおいてスピリチュアリティを検討した点

福祉の人物史研究を宗教性とスピリチュアリティに絞った横断的に総合的研究した点

スピリチュアリティの内面化だけでなく、社会性、国家性のマクロにまで拡大した点  
上記を国際比較として欧、北米、アジアとの比較で議論した点  
死生学の文脈に限定されないスピリチュアリティの社会福祉の応用的視座を明示した点

#### (4) 結論と今後の課題

以上から、本研究では、福祉の根源としての価値意識、社会福祉哲学と宗教性の関連の一端ではあるが一部を明らかにし、宗教性をいわゆる宗教の「組織」やその「教義」ではなく、未だ組織化されていない「霊性」としてのスピリチュアリティであると定義し、その上で、それを理性言語である福祉哲学との枠組みにおいて具体的に検証を試みた。

そして、社会福祉哲学の枠組みとスピリチュアリティの関連を理論的に検証する手がかりを得ることができた。また、ソーシャルワーカーの宗教性を歴史的に分析していき、その教派性や宗教意識(スピリチュアリティ)について思想史的に分析する端緒をつくった。それらは下記の文献のなかに具体的な内容として提示している。本研究は、更に発展的課題として、その宗教性と実践の関係を軸にデータ範囲を広げ、山室軍平の救世軍の霊性、George Müller のブラザレン運動の霊性のより詳細な一端についても明らかにしていくことになる。

#### 主要な研究業績

木原活信(2016.1)「教会と社会福祉—今求められるものは—」関西学院大学神学部編『教会とディアコニア』キリスト新聞社 pp.9-38.

木原活信(2016.6)「社会福祉におけるスピリチュアリティ—宗教と社会福祉の対話—」同志社大学神学部基督教研究会『基督教研究』第78巻第1号 pp.17-41.

木原活信(2017)「社会福祉におけるスピリチュアリティ—宗教と社会福祉の対話—」小原克博、勝又悦子編著『宗教と対話—多文化共生社会の中で—』教文館 pp.37-70.

木原活信(2018.7)「社会福祉と良心」同志社大学良心学研究センター『良心学入門』岩波書店 pp.66-75. 総頁数 160

木原活信(2018.12)「ジョージ・ミュラーの思想形成におけるフランケの敬虔主義の影響について」『評論・社会科学』(127) 1-17 2018年12月

木原活信(2019.1)「弱さの向うにあるもの—コンスタンティヌス主義に抗して—」日本キリスト教社会福祉学会誌『キリスト教社会福祉学研究』第51号 pp.43-53

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 木原活信	4. 巻 127
2. 論文標題 「ジョージ・ミュラーの思想形成におけるフランクの敬虔主義の影響について」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『評論・社会科学』	6. 最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.14988/pa.2018.0000000362	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 木原活信	4. 巻 51
2. 論文標題 「弱さの向うにあるもの コンスタンティヌス主義に抗して」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本キリスト教社会福祉学会学会誌『キリスト教社会福祉学』	6. 最初と最後の頁 43-53
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 木原活信	4. 巻 5
2. 論文標題 木原活信2018.1「自殺と「構造的暴力」について」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本社会福祉学会編 「シリーズ クローズアップ 現代の潮流を読む」第5回）	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） <a href="http://www.jssw.jp/news/pdf/news_77_09.pdf">http://www.jssw.jp/news/pdf/news_77_09.pdf</a>	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 木原活信	4. 巻 3巻
2. 論文標題 「現代社会とキリスト教 無縁社会に対してどう応答するか」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『賀川記念館総合研究所紀要』	6. 最初と最後の頁 97-130
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木原活信	4. 巻 第78巻第1号
2. 論文標題 「社会福祉におけるスピリチュアリティ 宗教と社会福祉の対話」同志社大学神学部基督教研究会	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『基督教研究』	6. 最初と最後の頁 pp.17-41.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) <a href="http://id.ndl.go.jp/bib/027500423">http://id.ndl.go.jp/bib/027500423</a>	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 木原活信	4. 巻 11月号
2. 論文標題 「「弱さ」の先には 一つ体である教会」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 『信徒の友』	6. 最初と最後の頁 pp.16-19.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松倉真理子、木原活信	4. 巻 Vol.57-3 No.119
2. 論文標題 「2015年度学界回顧と展望 ソーシャルワーク部門」	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 日本社会福祉学会誌『社会福祉学』	6. 最初と最後の頁 pp.130-142.
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) <a href="http://id.ndl.go.jp/bib/027818202">http://id.ndl.go.jp/bib/027818202</a>	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松倉真理子・木原活信	4. 巻 vol.56-3
2. 論文標題 「2014年度学界回顧と展望：ソーシャルワーク部門」,	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 日本社会福祉学会学会誌『社会福祉学』	6. 最初と最後の頁 135-149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山村りつ、市瀬晶子、引土絵未、倉西宏、李善恵、大倉高志、尾角光美、高仙喜、木原活信	4. 巻 第8巻第1号
2. 論文標題 「大学生の「悩みとその対処方法」に関するアンケート調査とその結果 自殺予防のための方策を探る」	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 『人間福祉学研究』	6. 最初と最後の頁 103-119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 10件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 木原活信
2. 発表標題 「弱さの向うにあるもの」基調講演
3. 学会等名 日本キリスト教社会福祉学会第59回大会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 木原活信
2. 発表標題 「ソーシャルワークと越境」「現代日本のスペシフィックな社会福祉問題とソーシャルワークの専門性～専門性の「越境」に対して、改めてジェネリックなアプローチを探る～」
3. 学会等名 日本ソーシャルワーク学会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 木原活信
2. 発表標題 「自殺とケア、そして「構造的暴力」について」「暴力と社会福祉」
3. 学会等名 日本社会福祉学会（招待講演）
4. 発表年 2017年



1. 発表者名 木原活信
2. 発表標題 「社会的包摂とキリスト教 構造的暴力と自殺を例に 」
3. 学会等名 龍谷大学実践真宗学研究公開セミナー（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 木原活信
2. 発表標題 「福祉と人権」
3. 学会等名 天理大学研究会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 木原活信
2. 発表標題 「弱さの向こうにあるもの」「障がい者の尊厳」
3. 学会等名 日本キリスト教社会事業同盟（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Kihara, Katsunobu
2. 発表標題 “Japanese Christian Social Welfare: Past, Present, and Future”
3. 学会等名 Social Work, Education and Social Development (SWSO,2016)（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 木原活信
2. 発表標題 「キリスト教社会福祉学の立場から」佛教大学
3. 学会等名 佛教大学総合研究所「現代社会における宗教の力」公開シンポ（招待講演）
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 木原活信(Kihara, Katsunobu)
2. 発表標題 The Challenges and Opportunities of Today ' s World: The Role of Christians in Social Welfare
3. 学会等名 KACSW;World Conference on Social Work, Education and Social Development 2016. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Akiko, Ichinose, Katsunobu Kihara
2. 発表標題 " Case study of suicide prevention practices based on Christian spirituality "
3. 学会等名 NACSW ' s 66th Convention 2016 :North American Association of Christians in Social Work (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計9件

1. 著者名 木原活信 (同志社大学良心学研究センター)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 160 (pp.66-75)
3. 書名 「社会福祉と良心」 『良心学入門』	

1. 著者名 木原活信	4. 発行年 2018年
2. 出版社 放送大学教育振興会	5. 総ページ数 300(81-92).
3. 書名 「ソーシャルワーカーの価値と倫理」横山登志子編『社会福祉実践の理論と実際』	

1. 著者名 木原活信	4. 発行年 2016年
2. 出版社 キリスト新聞社	5. 総ページ数 pp.9-38.
3. 書名 「教会と社会福祉 今求められるものは - 」関西学院大学神学部編『教会とディアコニア』	

1. 著者名 木原活信	4. 発行年 2016年
2. 出版社 中央法規	5. 総ページ数 pp.229 - 241 (276頁)
3. 書名 「自殺予防とソーシャルワーク実践」岡本民夫監修『ソーシャルワークの理論と実践 その循環的發展を目指して』	

1. 著者名 木原活信	4. 発行年 2017年
2. 出版社 同志社大学キリスト教文化センター	5. 総ページ数 pp.143-171.
3. 書名 「同志社と社会福祉 新島襄の良心教育の系譜」『良心之全身ニ充滿シタル丈夫ノ起り来ラン事ヲ』	

1. 著者名 木原活信	4. 発行年 2017年
2. 出版社 教文館	5. 総ページ数 pp37-70.
3. 書名 「社会福祉におけるスピリチュアリティ 宗教と社会福祉の対話」小原克博、勝又悦子編著 『宗教と対話 多文化共生社会の中で』	

1. 著者名 木原活信	4. 発行年 2017年
2. 出版社 同志社大学良心学研究センター	5. 総ページ数 pp. 55-66.
3. 書名 「社会福祉と良心」 『良心を考えるために』	

1. 著者名 木原活信、引土絵未編著	4. 発行年 2015年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 198
3. 書名 『自殺をケアするということ 「弱さ」へのまなざしからみえるもの』	

1. 著者名 木原活信	4. 発行年 2015年
2. 出版社 いのちのことば社	5. 総ページ数 189
3. 書名 『「弱さ」の向うにあるもの イエスの姿と福祉のこころ』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

木原活信公式サイト  
<https://velvet-kihara.ssl-lolipop.jp/>  
木原公式ブログ「雑想」  
<https://joe0918.blogspot.com/>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----